

インタープロフェッショナル・ヘルスケア 実践 チーム医療論 実際と教育プログラム

著 者：水本 清久、岡本 牧人、石井 邦雄、土本 寛二

発行者：大畑 秀穂

判 型：B5判 2色刷り 定価(3,000円+税)

出版社：医歯薬出版株式会社 2011年10月

「チーム医療」とは、「医療に従事する多種多様な専門職が、それぞれの高い専門性を前提に、目的・到達目標・手段に関する情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を定提すること」と定義できる。現在の医療の中で、チーム医療の重要性が高まってきていることは言うまでもないが、学生教育の中で、それをどのように伝えて行けば良いのか、ということに悩んでいるのは私だけではないであろう。自分の職以外のメディカルスタッフの職能を説明することは、イメージはできたとしても容易なことではない。そのような状況において、本書の前半では、主に各専門職の職能とチームのなかでの役割が記されており、それぞれの職種が医療の中でどのような役割を担っているのかを理解することができる。そして本書の最大の特徴は、後半部の実践編にある。実践編では、実際の症例(シナリオ症例)が提示されており、その情報に基づき多職種がどのように関わっていくことができるかが記されている。本書は主に北里大学の先生方により執筆されている。北里大学は、医療系4学部と2つの専修学校を擁し、14職種(医師、薬剤師、看護師、助産師、保健師、臨床検査技師、臨床工学技士、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、衛生管理者、管理栄養士)におよぶ医療関連専門職を育

成している教育機関であり、そこで実践されているのがチーム医療教育プログラム(オール北里チーム医療演習)である。この教育プログラムは、各学部の学生で10名程度の混成チームを作成し、シナリオ症例にもとづき討論を行い、その成果を発表するというものである。このプログラムでは、職種間の相互理解と相互尊敬を深めるだけでなく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力をも身につけることができる。本書には、この取り組みにより得られた北里大学のチーム医療教育のノウハウが詰まっている訳である。特に本書の秀逸な点は、各シナリオ症例における“ある種の正解”が設定されていることである。討論形式の教育プログラムであるため、どのようなところにそれぞれのチームが落とし所(目標)を設定し、話をまとめていくかは自由である。そういった意味ではどのような結論であっても、不正解ということはない。しかし、実際に行うとこのような形式に慣れていない学生も多く、着地点が分からなくなるということもあるのではないかと推察する。そのような際には、教員がサポートすることになるが、“ある種の正解”を基に指導できるため、ファシリテートし易いという利点があると感じている。

本学も、7学科を有し複数の医療関連専門職を育成する専門学校である。その特徴を活かし、北里大学のような取り組みを参考に、付加価値

を付けた教育を現在模索中である。また最終的には、医学部や薬学部を有する近隣の機関とも協力し、自施設だけでは完結できずとも、チーム医療教育プログラムが実施できるように、現在構想を練っているところである。本書は、臨床検査学教育に留まらず、今後のチーム医療教育

に役立つ内容となっているため、様々な先生方に一度手にとって頂きたい1冊である。

(小笠原篤：静岡医療科学専門学校 医学検査学科
ogasawara@shiz-med-sci.ac.jp)